

增訂
 小學讀本
 高等科卷二
 内田嘉一纂述

ホ 2
 5662



ホ2
5662

晉齋内田嘉一纂述

高等科用

增訂小學讀本

明治二十年八月廿五日文部省檢定濟小學校教科用書

增訂小學讀本卷ノ二目次
昭十六年一月十一日寄
尼野實英氏贈

- 第一課 日光足ラザレバ血色青シ
- 第二課 財ヲ聚ムルニ道アリ
- 第三課 ト傳壯士ヲ孤島ニ窘ム
- 第四課 小女父ノ舊帽ヲ恥シ
- 第五課 其二
- 第六課 異體同字ノ辨
- 第七課 愚公山ヲ壞シ
- 第八課 義經景時ト逆櫓ヲ論ス
- 第九課 貧富ノ故事

增訂小學讀本 卷二 目次

第十課 蚊蠖ハ屈テ後伸ブ

第十一課 君子ハ貧ヲ患ヘズ

第十二課 魚ニ空ヲ飛ブ者アリ

第十三課 類似ノ字ヲ誤リ寫ス勿レ

第十四課 甘ヲ分タザレバ苦ヲ共ニセス

第十五課 竹ハ木ナリヤ草ナリヤ

第十六課 忠秋鶉ヲ放ツ

第十七課 胃ヲ惡テ手足等勞動セス

第十八課 老僧木ヲ接グ

第十九課 童子釘痕ノ消エザルヲ悲ム

第二十課 人ヲ救ハントテ却テ己ヲ救フ

第二十一課 罐中ノ水汽機ノ大用ヲ開ク

第二十二課 漫ニ人ヲ疑フ勿レ

第二十三課 其二

第二十四課 高名ハ勉強ヨリ成ル

第二十五課 野蠻ノ民文字ヲ見テ魔術トス

第二十六課 迂翁驢馬ヲ販グ

第二十七課 童子湖邊ニ泳水ヲ學ブ

第二十八課 其二

第二十九課 今日怠テ明日アリト云フ勿レ

第卅課 務テ身體ヲ動カサバ終身病ナシ

第卅一課 金囊ヲ托セバ必ズ證券ヲ要ス

第卅二課 其二

第卅三課 其三

第卅四課 惡ヲ行ヘバ惡報アリ

第卅五課 板倉勝重内謁ヲ塞グ

第卅六課 骨ハ土質ト膠質ヨリ成ル

第卅七課 人骨二百四十八枚

第卅八課 其二

増 小學讀本卷ノ二

南總 内田嘉一 纂述

第一課

日光足ラザレバ血色青シ

人ノ健康ハ血色ノ紅ナルニヨルナリ。故ニ久シク

暗室ニ居リ。或ハ日光ナク。燈火ノミノ處ニ居レ

バ。血色愈々青白トナリ。竟ニハ瘦セテ病ヲ得ベ

シ。

富貴ノ家ハ宮室美ナリト雖モ日光ハ猶ホ不足
ナリ。今都城内ノ富人ト田舎ノ農夫ト相比較シ。
或ハ深宮佳麗ノ女ト山間負薪ノ女ト比較スル
片ハ一ハ面色白クシテ身虚弱ニ一ハ面色赤ク
シテ體壯健ナリ。然レモ居處飲食衣服ノ類ハ皆
農家ニ勝レリ。其農家ニ及バザル處ハ多ク清淨
ノ空氣ヲ得_ザレト。多ク日光ヲ見_ザルトニ在リ。故ニ
富貴ノ人ハ毎日若干時間務テ外ニ出テ室中ニ
居ラザルヲヨシトス。

人ノ常ニ日光ヲ見ルハ天地ノ人ヲ生ズル本意
ナレバ終日日光ヲ見ルト少シモ缺クベカラズ。
若シ常ニ室外ニ居ルト能ハズバ宜シク窓戸ヲ
開テ日光ヲ入レ。夏日ハ簾ヲ懸テ蔽フベシ。
蓋シ人タルモノハ本來日出テ、作事ニ就キ日
入テ休息スベキト。是一切動物ノ公理ナリ。然ル
ニ世人往々此理ト相反シ。日出デントスル時猶
ホ睡ラントヲ欲シ。日暮テノ後却テ作事ス。故ニ
公理ニ隨ヘバ唯々燈燭ヲ省クノミナラズ多ク

日光ヲ得ルガ故ニ。神心常ニ快樂ヲ覺エ。懈怠ノ
心ヲ生ズルコト無ク。又以テ病ヲ免ルベシ。
吁。近世ノ人。何ゾ此理ニ昧キヤ。抑々又知レド改
メザル歟。諺ニ曰ハク。早起早眠。福壽綿々。ト深ク
考フベシ。

第二課

財ヲ聚ムルニ道アリ

凡ソ天下ノ人。何人カ財ヲ好マザラン。其好デ之
ヲ得ザルモノハ何ゾヤ。蓋シ其道ヲ得ザレバナ

リ。抑々財寶ハ天下共有ノ物ニシテ。其主ノ定マリ
アルコトナシ。故ニ其道ヲ得レバ聚マリ。其道ヲ失
ヘバ散ル。道トハ何ゾ。則チ他ニアラズ。仁義五常
ヲ守リテ。其業ヲ勤メ。得ル所ノ錢ハ。必ズ之ヲ三
分シ。二分ヲ以テ衣食ニ供シ。一分ヲ以テ之ヲ貯
フルナリ。其貯フルニ當テハ。之ヲ遇スルコト賓客
ノ如ク。之ヲ尊ムコト父母ノ如クスベシ。其始メ。些
少ノ錢ナルモ。日ヲ積ミ。月ヲ累子。年ヲ經ルニ至

テハ其數亦少カラズ。大ニ用フルニ足ルモノナ
リ。其間嚴ニ情欲ヲ塞ギテ聲色ニ耽ラズ。衣食ヲ
節シ。居宅ヲ飭ラズ。佚遊ヲ好マズ。只顧其業ヲ樂
シ。勤メバ。其財ノ聚ラン。鳥ノ林ニ叢リ。獸ノ澤
ニ至ルガ如シ。是即チ寶ヲ得ルノ道ナリ。

然リト雖モ。此物ノ散ジ易キ。猶ホ風前ノ塵ノ
如シ。少シク心ヲ弛ベ。花月ニ酒ヲ酌シ。絃歌ニ耳
目ヲ悅バシムルキハ。財寶之ヨリ洩リ。多年ノ辛
苦モ。一朝水泡ニ屬スベシ。故ニ其志ヲ得ルニ至

ルマデハ。一切是等ノ事ヲ慎ミ。深ク其情ヲ忍ブ
ベシ。既ニ志ヲ得。年五十二及バハ。是ヨリ安樂ニ
身ヲ養ヒ。亦以テ貧人ニ施スベシ。

第三課

ト傳壯士ヲ孤島ニ窘ム。昔シ土佐ノト傳ト云フモノアリ。一家ノ劍法ヲ
開テ。自ラ無手勝流ト號ス。或時東國ニ游バント
シ。江州矢走ニ到リ。渡船ヲ雇ヒシニ。乗合ノ客六
七人。中ニ一個ノ壯士アリ。長高ク。髭黒ク。意氣甚

曾ハ思賣人 六

ダ傲然盛ニ劍法ヲ説テ。傍ラ人無キカ若シ。既ニ
レテ。ト傳ニ謂テ曰ハク。先生モ雙刀ヲ帶ブレバ。
定テ劍道ヲ講ズルナラン。其流ヲ何トカ曰ヘル。
ト傳初ヨリ眠レルマ子レテ居タリシガ。是ニ至
テ。微笑シテ曰ハク。我が流ハ無手勝ナリ。無手勝
トハ刀ヲ用ヒズ。徒手ニシテ人ニ勝ツノ義ナリ。
壯士曰ハク。然ラバ。何ノ爲メニカ兩刀ヲ帶ベル。
ト傳曰ハク。我慢ノ鋒ヲ切り。惡念ノ萌レヲ斷タ
シガ爲メナリ。壯士怫然曰ハク。然ラバ刀無クシ



テ能ク勝タニヤ願タハ
陸ニ上ボリテ雌雄ヲ決
セント傳曰ハク。謹テ命
ニ從フ。然レモ陸ニ上ラ
バ人稠シ。彼ノ方ニ島ア
リ。彼ノ地ニ至テ。我が流
ヲ試ムベシト。舟師ニ命
ジテ舟ヲ着ケシムレバ。
壯士ハ直チニ岸ニ上ボ

言小出言本 卷二 金澤堂
リ。白刃ヲ提テ屹立シ。罵テ曰ハク。先生速ニ上ボ
レ。何ゾ躊躇セル。ト傳曰ハク。幸ニ暫ク待テ。無手
勝流ハ神思ヲ定ムルヲ最要トスト。高ク裳ヲ蹇
ゲ。雙刀ヲ脱シテ舟師ニ授ケ。棹ヲ取テ岸ニ着ケ。
忽然一棹スレバ。舟開テ岸ヲ離ル。壯士怪テ曰ハ
ク。先生上ボラザルカ。曰ハク。何ゾ上ボルベキ。吾
ヲ撃タントセバ。速ニ游ギ來レ。是我ガ無手勝流
ナリト。高聲ニ笑ヒケレバ。壯士大ニ怒リ。舟ヲ返
セト曰フ。ト傳右手ニ棹ヲ取り。左手ニ鐵扇ヲ開

キ。我が流ノ秘極ヲ慕ハシ。他日當サニ傳フベシ。
今日且ラク謝シ去ルルコト。既ニシテ。舟山田ニ
至ル。衆客以テ快トセリ。

第四課

小女父ノ舊帽ヲ恥ヅ。小女名ハ花子。歳甫メテ十一。面紅色ヲ帯ビテ。
外ヨリ還ル時ニ其父銀ヲ算ヘ。方ニ櫃ニ納レ。女
ヲ見テ問テ曰ハク。汝何ニカ還リ來タル。花子遽
ニ答ヘズ。良アリテ曰ハク。吾ガ還レルハ。尊帽ニ

係リテナリ。父曰ハク。我が帽如何ゾヤ。曰ハク。試ニ尊帽ヲ見ヨ。敝汚觀ルニ堪ヘズ。大人宜シク之ヲ新ニスベシ。且ツ衆人皆嘲リテ汚帽ト謂ヘリ。曰ハク。衆人トハ誰ゾ。友人春子ナリ。春子ハ即チ衆人ナリヤ。花子口澁ブリ。良アリテ。春子ハ即チ衆人中ノ一ノミ。唯々大人之ヲ新ニセヨ。父曰ハク。我一錢ナシ。花子曰ハク。否ナ然ラズ。大人只今櫃ニ收メシニアラズヤ。曰ハク。此レハ以テ他用ニ供セントスルナリ。花子曰ハク。他物皆佳

ナリ。佳ナラザルハ。獨リ帽ノミ。今日春子。我ニ告ゲテ曰ハク。衆人皆大人ヲ吝嗇ナリト言ヘリ。女々之ヲ聞テ。忿恨ニ堪ヘズト。潜然涙下ダル。父曰ハク。汝吝嗇ノ意味ヲ知レリヤ。曰ハク。知ラザレ。之ヲ聞クニ甚ダ快カラズ。故ニ以テ惡名ト思ヘリ。父曰ハク。來レ。我汝ニ語ラシ。吝嗇トハ。餘アリテ不自由ナキニ。猶ホ欲深ク金銀ヲ貯ヘ。人ニ施ササルヲ謂フナリ。花子曰ハク。吝嗇ノ意味。始メテ悟レリ。然レバ。大人ハ毫モ吝嗇ナシズ。常ニ

人ニ施スガ故ナリ。

第五課

其二

父曰ハク。然リト雖モ。我素ヨリ貧ニシテ。富貴ノ人ノ如ク。大ニ之ヲ施スヲ得ズ。故ニ知ラザル者ハ之ヲ謗ルノ也。讒口ノ防ギ難キハ。火ヨリモ甚シ。凡ソ此世ニ在テハ。唯々信ヲ以テ交ハルヲ要トス。讒口ノ如キハ。必ズ意トスル勿レ。且ツ我新帽ヲ買ハザルハ。又所以アルナリ。我ニ獨ル知己

アリ。性質慍良ニシテ。元來家富ミタルガ。不幸ニシテ禍ニカケリ。今日ニ至テハ。貧苦極テ甚シ。子ハ饑テ泣キ。妻ハ寒テ呼ベリ。往年我が父。貧ニ迫リシ時。往テ其金ヲ借リ。始テ家業ヲ開ケリ。爾來我ニ至リ。幸ニ今日アルハ。全ク此人ノ恩惠ニ依ルナリ。故ニ。我此人ヲ救テ。舊恩ニ報イントス。今帽ヲ買ハンニハ。五圓ヲ費スベシ。此五圓ノ金。彼ニ在テハ。甚ダ切要ナリ。帽ヲ買ハンハ。甚ダ切要ナラズ。是ヲ以テ暫ク人ノ謗ヲ忍ビ。此舊帽ヲ用

フルナリ。汝猶ホ以テ恥ツ可シトスルカ。
花子曰ハク。今大人ノ言ヲ聞テ。舊帽ノ却テ新帽
ニ勝レルヲ知レリ。悲去テ心甚ダ樂シ。復タ何ノ
之ヲ恥ヂンヤ。

第六課

異體同字ノ辨

文字ノ形。楷行草ノ書體ニ由リテ。異ナルハ勿論
ナレ。凡。同ジ楷書ノ中ニモ。其形異ニシテ。其字同
ジキモノ。甚ダ多シ。今初學ノ士。須ラク知ルベキ

者ヲ舉ゲテ左ニ示ス。

〔筆〕ハ竹ニ從ヒ。聿ニ從フヲ正トスレ。艸ニ從ヒ
テ〔筆〕ニ作ルモアリ。又竹ノ下毛ニ從ヒテ。〔笔〕ニ作
ルモアリ。〔紙〕ハ糸ニ從ヒ。氏ニ從フヲ正トスレ。凡。
往々氏ノ下巾ニ從ヒ。〔帑〕ニ作ルモアリ。又明治ノ
〔明〕ノ字ハ。日ニ從ヒ。月ニ從フヲ常トスレ。凡。〔明〕ニ
作リ。〔朙〕ニ作ルモアリ。凡。〔書〕ノ字。皆同字ナリ。
又算數ノ〔算〕ヲ。〔筭〕氏。〔筭〕氏書キ。著述ノ〔著〕ノ字ヲ。〔着〕
氏。〔著〕氏書ク。皆同字ナリ。〔雁〕ハ。〔鴈〕ニ同シク。〔雞〕ハ。〔鷄〕

二同じ。岳ハ嶽ニ異ナラズ。烟ハ煙ニ異ナラズ。又壹ハ一ニ同じク。萬ハ万ニ同じ。

又海ヲ衆凡書キ。岡ヲ岒凡書ク。皆同字ナリ。針ハ鍼ト同じク。筒ハ筩ト異ナラズ。又事ヲ夏ニ作り。牀ヲ床ニ作り。杯ヲ盃ト書シ。箸ヲ筯ト書スルモ。亦同字ナリ。凡ソ此類甚ダ多シト雖モ。一々茲ニ數ヘ難シ。餘ハ他日ノ講習ヲ期ス。

第七課

愚公山ヲ壞ツ

昔シ愚公ト云ヒシ者アリ。家近ク山ノ有ルヲ厭ヒ。之ヲ外ヘ移サントシ。日々其子ヲ從ヘ。鋤ヲ執テ一簣ヅ、壞チ取レルヲ。智叟ト云フ者。之ヲ笑テ曰ハク。斯クノ如キ大山。争デカ兩三人ノ力ヲ以テ壞チ盡クスベキト。愚公聞テ曰ハク我之ヲ壞チ。子孫之ヲ壞チ。曾孫之ヲ壞チ。此クノ如クシテ止マザルキハ。終ニ能スベシト。智叟益々笑ヒシト云フ。愚公ノ心ハ。世人ノ以テ愚トスル所。智叟ハ

心ハ。世人ノ以テ智トスル所ナリ。然レモ。天下ノ事。愚公ノ心ヲ以テセバ。一トシテ成就セザルモノナシ。然ルニ世ニ智アリト稱スル者。概子智叟ノ心ニシテ愚公ノ心ナル者鮮シ。是ヲ以テ。其事多クハ成就シ難シ。深ク考フベシ。

第八課

義經景時ト逆櫓ヲ論ズ

文治元年二月。源義經。平氏ヲ討タントシテ。京師ヲ發シ。渡邊ニ艤セリ。然ルニ。義經ノ兵士。皆水戰

ニ習ハズ。人々自ラ危メリ。此時。梶原景時。監軍ニテ從ヒケルガ。義經ニ謂テ曰ハク。請フ逆櫓ヲ作ラシ。義經曰ハク。逆櫓トハ如何ナル物ゾ。景時曰ハク。舳ト艫ト。皆櫓ヲ設クルヲ逆櫓ト謂フ。夫レ陸



戰ハ馬ニ騎リ。進退心ノマ、ナレバ。水戰ノ如キ
ハ。進ムニ易ク。退クニ難シ。今逆櫓ヲ設ケントス
ル者ハ。敵堅ケレバ。艦ヲ以テ退キ。敵撓メバ。舳ヲ
以テ進マントスルナリ。

義經曰ハク。凡ソ戰ニ臨ム者ハ。主將勇銳ニシテ
衆ヲ勵マスモ。猶ホ退カント欲スルハ。兵ノ通患
ナリ。然ルニ。未ダ戰ハズシテ。豫メ逃グルノ計ヲ
設ク。何ゾ利ヲ得ルコト有ルベキ。

景時曰ハク。進ムベクシテ進ミ。退クベクシテ退

クハ良將ナリ。唯々進ムコトノミ有テ。退クコト無キ
ハ。所謂猪武者ナルノミ。

是ニ於テ。義經色ヲ作シテ曰ハク。猪カ。鹿カ。吾自
ラ知ラズ。吾ハ唯々進デ。敵ヲ勦スルノ快キヲ知
ルノミ。卿若シ大將タラバ。逆櫓百千。卿ガ爲サン
所ニ任セン。義經ノ若キハ。欲セズト之ヲ聞テ。衆
人景時ヲ哂フ。景時慙恚シ。是ヨリ義經ヲ怨ム。
義經遂ニ將士ニ令シテ曰ハク。進デ死セン者ハ
我ニ從ヘ。退テ生キン者ハ是ヨリ去レト。畠山重

忠熊谷直實。佐々木高綱。等從ハント願フ者。數十人。

第九課

貧富ノ故事

膏粱ハ美味ナリ。藜藿ハ粗食ナリ。貧富ノ食自ラ別アリ。故ニ。富人ノ口ハ。膏粱ニ厭キ。貧士ノ腸ハ。藜藿ニ習フ。

食前方丈ハ富貴ノ食ヲ云ヒ。一食萬錢ヲ費ヤストハ奢侈ノ甚シキナリ。

米ヲ數ヘテ炊シギ。薪ヲ秤テ焚クトハ。吝嗇人ノヲ鄙ムナリ。守錢奴トハ。金錢ノ番人ナリ。財ヲ蓄ムテ散ビザルヲ惡ム。如ヤヤイ裕子ハ大ニ難苦家貧ニシテ依ルベキ無キヲ。落魄ト曰ヒ。富足リテ倉庫充チタルヲ。殷實ト曰フ。懸磬トハ。家貧クシテ一物モ無キノ狀ナリ。故ニ。貧人ノ室ハ磬ヲ懸ルガ如シ。一擔一石ハ。物ノ量少キノ稱ナリ。故ニ。貧甚シキヲ。家ニ擔石ノ儲ナシト曰フ。

鵠形ハ瘦セタル形。菜色ハ色青キナリ。故ニ窮民
饑餓ノ状ハ。鵠形菜色アリ。

陶朱倚頓ハ。古ノ富人ナリ。富巨萬ヲ累ヌ。故ニ莫
大ノ富ヲ陶朱倚頓ノ富ニ比ス。

第十課

凡ソ人身ヲ立テ。名ヲ成サント欲セバ。大ニ難苦
ヲ嘗メテ。其屈ヲ忍バベシ。然ラザレバ。終ニ其志
ヲ逐グルコトナシ。屈トハカバミテ伸ビサルナリ。

蚺蝮ハ屈テ後ニ伸ブ

昔シ。四十七士ノ千辛萬苦シテ。主君ノ仇ヲ報イ
タルニテ言ハバ。其千辛萬苦シタルハ屈ナリ。竟
ニ仇ヲ報イタルハ伸ビタルナリ。
虫ノ中ニ蚺蝮ト云フモノアリ。又螂蠖ト名ツク。
世ニ「シヤクトリ」ト云フ。此虫ノ形。蠶ニ似テ木ノ
葉ヲ食ラヒ。老ユル時ハ絲ヲ吐キ。室ヲ作りテ之
ニ入り。終ニ化シテ蛾トナルナリ。此虫行クハ
首ト尾ト相就キ。屈シテ後ニ伸ブ。其狀恰モ指ニ
テ物ノ尺ヲ測ルガ如シ。故ニ尺取虫ノ名ヲ得タ

ルナリ。人モ其志ヲ伸バサントセバ。先ヅ屈ミテ
難苦ヲ嘗メン。尤モ肝要ナリ。古ノ人此虫ヲ以
テ人ヲ戒メシモ。宜ナルコトナリ。羅山文集ニ曰
ハク。

化工到處入微塵。蜘蛛眇形含氣均。
一屈一伸知進退。笑他直尺枉尋人。

第十一課

君子ハ貧ヲ患ヘズ。蓋シ貧ハ以
古今有名ノ士。多クハ貧家ヨリ出ヅ。蓋シ貧ハ以

テ士ヲ勵マシ。能ク難苦ニ堪ヘシムレバナリ。故
ニ君子ハ貧ヲ憂ヘズ。其學ノ成ラザラシマ
憂フ。新井君美ハ白石ト號ス。常陸ノ人ナリ。少キ時。父
ニ隨テ江戸ニ至ル。家固ヨリ貧ナレバ。或人醫ト
ナラン。トヲ勸ムレ。從ハズ。專ラ經書。歴史ヲ修
メテ。學士トナラン。トヲ期セリ。時ニ河村瑞軒。家
富ミテ多ク書アリ。君美其書ヲ借覽ス。瑞軒。君美
ノ凡ナラザルヲ知リ。其女ニ配シテ。壻トセン。

スレバ肯ゼズ。後某侯ニ仕ヘ志ヲ得ズレテ去ル。時ニ家益シ貧シク。唯ク青銅三百文。米二斗アル。然レバ之アレバ猶ホ凍死ヲ免ルベシト。自若トシテ書ヲ讀メリ。常ニ自ラ言フ。大丈夫生きテ封侯ヲ得ズバ。死シテ當ニ閻羅王トナルベシト。其氣象思ヒ知ルベシ。終ニ大儒トナリ。幕府ニ仕ヘ。從五位下ニ叙シ。筑後守ニ任ゼラル。古今學士多シト雖モ。著書ノ富。此人ニ過グル者ナク。又皆有用ノ書ノミ。今ニ至テ世人益シ欽慕ス。

第十二課

魚ニ空ヲ飛ブ者アリ

蒼海渺々ノ處ニ魚アリ。水ヨリ出テ、飛テ水上ヲ行ク。飛鳥ノ如シ。之ヲ名ヅケテ飛魚ト曰フ。全身藍青。鱗銀色ニシテ大ナリ。一ビ飛ブニ。或ハ二十間。或ハ三十間。其後水中ニ入り。再ビ出テ、飛ブ。初ノ如シ。蓋シ他魚ノ吞噬ヲ遁レンガ爲メナリ。

小笠原島地方ノ海ニハ。此魚豚魚ニ逐ハレテ。逃



ル、モノ雲霞ノ如キ
屢く之アリ。銀鱈藍身日
光ニ映ズル時ハ。美觀譬
フルニ物ナシ。
曾テ人アリ。海上大風ニ
遭ヒ。船破レテ沈没シ。水
夫皆死ス。是ニ於テ。獨リ
纒ニ壞木ヲ編シ。筏ヲ作
リテ之ニ乘リ。數日ノ間。

一身大海ヲ漂流セリ。始ハ程ハ貯ノ食聊アリシ
ガ。後ニハ其食モ盡キ果テ、食ハザルヲ三日。殆
ド餓死シ。顔色菜ノ如シ。亦來者ハ皆一洞ニ
既ニシテ。天晴レ風熄シ。波濤始テ靜ナルニ及テ。
海上俄ニ音アリ。怪テ四方ヲ顧レバ。一群ノ飛魚。
水上ニ飛ビ起リ。終ニ其筏ニ落ツルモノ頗ル多
ク。瞬間ニシテ數十尾ヲ獲タリ。因テ之ヲ食ラヒ
テ。數日ヲ經シニ。適ニ巨船ノ過グルニ會ヒ。幸ニ
波臣ト爲ラザルヲ得タリト云フ。

曾、是、讀、本、卷、二

金、港、堂

第十三課

類似ノ字ヲ誤リ寫ス勿レ

助ハ音(シヨ)タスクルナリ。且ニ從ヒカニ從フ。目
 ニ從ヒテ。助ニ作ルハ非ナリ。
 筋ハ音(ギン)スズナリ。竹ノ下肋ニ從フ。筋ハ音(チ
 ヨ)物ヲ食ラフ(ハシ)ナリ。元來箸ノ字ト同ジ。竹ノ
 下助ニ從フ。
 秤ハ音(シヤウ)ハカリナリ。禾ニ從ヒ平ニ從フ。元

來稱ノ字ト同ジ。天秤トハ(ハカリ)ノ一ナリ。(テ)ン
 ビント讀ムハ誤リナリ。秤ハ音(ヘイ)ゴバニナリ。
 木ニ從ヒ平ニ從フ。天秤ノ秤ト誤ル一勿レ。
 窠ハ音(シウ)タカキナリ。山ノ下宗ニ從フ。窠ハ音
 (スイ)タ、リナリ。出ノ下示ニ從フ。
 窠ハ音(ミツ)ヒソカトモ(シゲ)トモ讀ム。窠ノ下
 山ニ從フ。窠モ音(ミツ)ナレ。厖意味異ナリ。此レハ
 (ハチ)ミツトテ。蜂ノ作レル(ミツ)ヲ云フナリ。故一
 窠ノ下虫ニ從フ。

第十四課

甘ヲ分タザレバ苦ヲ共ニセズ

昔シ二人アリ。交情甚ダ深ク。平生頗ル氣節ヲ以テ相期セリ。一日同ジク郊外ニ遊ビケルニ。路ニ遺囊アリ。甲前テ之ヲ拾ヒ。解テ之ヲ視ルニ白銀數百枚アリ。甲喜ブテ限ナシ。乙見テ亦喜テ曰ハク。是何ノ幸ゾ。實ニ大吾ガ二人ニ福スルナリト。甲之ヲ聞キ。色ヲ作シテ曰ハク。之ヲ拾ヘルハ吾ナリ。天固ヨリ吾一人ニ福スルナリ。然ルニ君何

ゾ之ヲ二人ト曰ク。乙遂ニ黙シテ言ハズ。イ曰ス。既ニレテ行クト半里バカリ。忽チ劫盜數人アリ。林中ヨリ其提携ノ重キヲ窺ヒ。之ヲ奪ハントシ。踪ヲ躡テ至ル。甲大ニ恐惶シ。遽ニ乙ニ語テ曰ハク。劫盜來ル。二人ノ禍將ニ作ラントス。如何セバ可ナランカ。乙曰ハク。嘻。此レ天固ヨリ汝一人ニ禍スルナリ。然ルニ。汝何ゾ二人ト曰ヘルト。盜至ルニ及テ。赤手ノ者ヲ釋シ。提携ノ者ヲ刃シ。其囊ヲ奪ヒテ去リシト云フ。ニ甘和ハ合ハサヤシ

嗚呼。平生無事ナル時。既ニ甘味ヲ分カタザレバ。誰カ危急ニ臨テ。難苦ヲ共ニスルモノアランヤ。蓋シ。多欲ニレテ。飽マデ金銀ヲ得ントスルモノハ。難ニ臨メバ。必ズ免レンヲ務ムルモノナリ。此二人ノ者。地ヲ易ヘバ皆然リ。

第十五課

竹ハ木ナリヤ草ナリヤ

一タ童子五六人相集リ。輪番樹木ノ名ヲ舉ゲテ。語詰マリタルヲ負トシケルニ。甲先ヅ松ト曰ヘ

バ。乙ハ杉ト曰ヒ。丙ハ梅ト曰フ。丁ハ語俄ニ詰マ
リテ。竟ニ竹ト曰ヘリ。此時他童皆曰ハク。竹ハ元
來木ニ非ラズ。今樹木ノ名ヲ舉グルニ。竹ト曰ヒ
レハ何事ゾ。竹ハ決シテ木ニ非ズ。丁ノ曰ハク。竹
ヲ木ニ非ラズトセバ。何ノ類ナル。衆童相見テ答
ヘズ。一童曰ハク。竹ハ固ヨリ木ニ非ラズ。是草ナ
リ。丁曰ハク。凡ソ草ハ皆一年ニシテ。莖葉共ニ枯
レ果ツル者ナレバ。竹ハ決シテ然ルナシ。是ヲ
以テ。我ハ木ナリトスルナリ。曰ハク。木ニハ中虚

ロニシテ節アル者ナシ。草ニハ間ク之アリ。蘆ノ類見ルベシ。我輩是ヲ以テ草ナリトスルナリト。是ヨリ問答相募リ。盛ニ己ノ説ヲ主張スレド。遂ニ其論定ラズ。其後ニ其家ノ主人ニ問ヒケレバ。主人ノ曰ハク。衆論何レモ理アリテ。誰ヲ勝チ。誰ヲ負トモ定メ難シ。抑々竹ハ古ヨリ其説同ジカラズ。或ハ木ナリトシ。或ハ草ナリトシ。又木ニモ非ズ。草ニモ非ズ。予種々モ口ナリトモ曰ヘリ。今時支那ノ人ハ。

苞木トテ棕櫚ノ類ニ入レ。西洋ノ人ハ。禾木トテ蘆ノ類ニ入レタリ。然レバ。竹ハ木ト草トノ兩説アリテ孰ヲ勝チ孰ヲ負ケトモ定メ難シト。之ヲ聞テ。童子各己ノ説ノ相當レルヲ誇リテ去ル。

第十六課

忠秋鶉ヲ放ツ

萬治寛文ノ頃。世上競ヒテ鶉ヲ飼ヒ。富貴ノ家ハ。爲メニ數百金ヲ投ズルニ至レリ。是ヲ以テ其價益ク貴シ。

時ニ執政阿部豊後守忠
秋モ亦之ヲ蓄ヘリ。因テ
詔諛ノ徒。其意ヲ得ン
ヲ欲シ。遂ニ其最ナル者
ヲ求メ。佞醫ニ托シテ獻
ゼント云フ。忠秋聞テ暫
ク言ナシ。既ニシテ近習
ヲ召シ。籠ヲ開テ鶉ヲ放
タレムレバ。醫師異ニテ



曰ハク。籠鳥恩ヲ知り。放ツモ亦タ歸ランカ。曰ハ
ク。否ラズ。近日吾偶々之ヲ愛セシニ。圖ラズ今日
ノ事アリ。是禍ノ端ナリ。故ニ今ヨリ再ビ鶉ヲ蓄
ハジト。醫師恥ヂテ去ル。
凡ソ人タル者ハ。一介モ非理ノ物ヲ受ケザラン
ヲ要ス。況ヤ身高位ニ在テ。其道ニ當ルモノハ。尤
モ慎ムベキノ一事ナリ。

第十七課

胃ヲ惡テ手足等勞動セズ

曾テ耳目鼻口手足ノ輩。胃ノ腑ノ坐食セルヲ惡
シ。相議シテ曰ハク。吾輩日夜勞動シ。得ル所ノ食
ハ。皆送テ胃ノ腑ニ致ス。然ルニ。胃ノ腑ハ安坐シ
テ之ヲ食ラヒ。絶テ吾輩ニ報ユルヲ知ラズ。今ヨ
リ後。吾輩勞動セズシテ。安佚ニ日ヲ送り。胃ノ腑
ノ爲メニ。一粒モ食ヲ給セザルニ如カズト。是ヨ
リ足ハ食堂ニ行カズ。手ハ匙箸ヲ執ラズ。口ハ食
物ヲ入レズ。齒ハ食ヲ喫マズ。鼻ハ食ノ香臭ヲ分
カタズ。目ハ食ノ美惡ヲ擇バズ。耳ハ食時ノ報ヲ

聞カズ。此クノ如クスル一兩三日。胃ノ腑全ク飢
渴シテ。手足疲レ。耳目昏惰シテ。全體衰弱ヲ極メ
タリ。
是ニ於テ。胃ノ腑衆ニ謂テ曰ハク。兄等何ゾ愚カ
ナル。今ニ至テ始テ知ラン。兄等ノ吾ニ給セシ食
ハ。獨リ吾ノ用ヒレニ非ズ。毎ニ之ヲ釀シテ精
醇ノ汁トナシ。再ビ之ヲ血液製造ノ所ニ致セリ。
是即チ今日マテ兄等ヲ養ヒタル血ナリ。而ルニ
兄等我ヲ以テ坐食セリトシ。我ヲ惡ム一是クノ

如シ我豈ニ徒ラニ坐食セル者ナランヤ。今ヨリ
後其非ヲ悟リ。相勞スルヲ初ノ如クセヨ。否ザレ
バ互ニ相害スルノ道ニシテ。相助クルノ策ニ非
ズト。手足等大ニ感嘆セリ。

第十八課

老僧木ヲ接グ

徳川將軍嘗テ遊獵シテ一寺ニ息ヒシニ。寺僧年
老イテ幾ト九旬ナラントス。時ニ庭ニ在テ水ヲ
汲シ。手自ラ果木ヲ接ゲリ。將軍之ヲ見テ曰ハク。

今老僧。餘命幾バクモ無シ。之ヲ接グモ必ズ其果
ヲ見シ。何ゾ勞シテ無用ノ事ヲ爲セル。僧曰ハク。
今此木ヲ接グハ。我が爲メニスルニ非ズ。他年後
主ノ代。此木生長シテ。花ヲ開キ。實ヲ結ババ。一ハ
以テ花ヲ樂シシ。一ハ以テ實ヲ食ラヒ。且ツハ寺
中ノ景致ヲ添フベシ。野僧ノ謀ル所。專ラ後世ヲ
惠ムニ在リテ。固ヨリ區々一身ノ爲メニ非ズト。
將軍嘆賞セリ。

第十九課

童子釘痕ノ消エザルヲ悲ム

昔レ一人ノ童子アリ。常ニ他童ト忿争シ父ノ誨ニ從ハズ。一日其父之ニ謂テ曰ハク。汝常ニ我ガ教ニ順ハズ。誠ニ憎ムベシ。今ヨリ汝ガ不善ヲ作ス毎ニ柱ノ上ニ釘一本ヲ打チ。又善ヲ爲サバ。其釘一本ヲ拔キ去ルベシ。汝必ズ忘ル。ト勿レト。童子之ヲ意トセズ。尚ホ忿争シテ止マザリケレバ。釘ヲ打ツコト日ニ數十本ニ至ルモ。之ヲ拔クト甚ダ稀ナリ。因テ柱ハ滿面ノ釘トナリ。其狀幾ド

蝟ノ如シ。トモ又滿ハル。ト云テ其狀自田ノ大ニ然

此時童子之ヲ見テ大ニ歎ジ。今ヨリ心ヲ改メテ善ヲ修メ。悉ク此釘ヲ拔キ去ラント。自ラ心ニ誓ヒ是ヨリ善事ヲ勉メテ。少レモ怠ラザリシカバ。父ハ日々其釘ヲ拔キ去リ。終ニ唯ク一本ヲ餘セルニ至レリ。其時父ハ童子ヲ招テ曰ハク。此一本ハ汝ヲ賞シテ拔キ去ルベシ。如何。童子涙ヲ流シテ喜ベル色ナシ。父異ニテ其故ヲ問ヘバ。童子曰ハク。釘ノ拔

ケシハ喜ブベキモ其痕消エザルヲ悲ムノコト。

第二十課

人ヲ救ハントテ却テ己ヲ救フ

越後ノ國ヨリ。上野ノ國ニ踰ユル處ニ。三國峠ト云ヘル路アリ。冬日雪降ルキハ。行人頗ル其危険ニ苦メリ。

曾テ越後ノ商人。此處ヲ過ギントセシニ。半途ニシテ。天俄ニ陰リ。北風雪ヲ卷キ來タリテ。烈シク耳目ニ入り。手足漸ク凍エテ。進退自由ナラズ。然

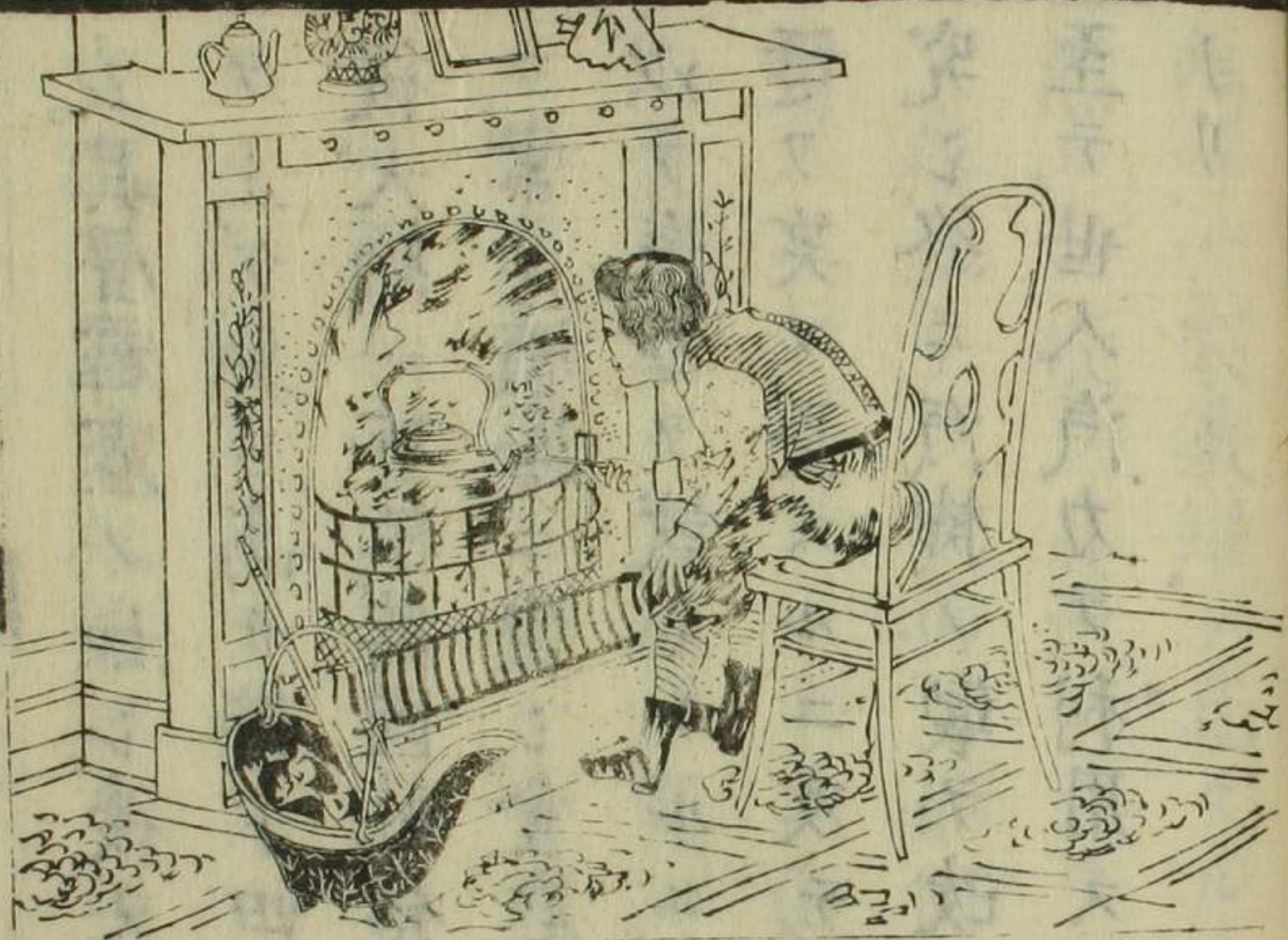
レモ氣ヲ勵マシ。猶ホ行クヲ數十歩。時ニ人アル雪中ニ倒レテ幾ド死セリ。商人之ヲ見テ。大ニ驚キ。匍匐シテ至レバ。全身凍エテ。僅ニ微息アルル。商人之ヲ救ハントシ。ガヲ奮テ全身ヲ摩擦セシニ。暫クシテ漸ク暖ニナリ。忽然眼ヲ開テ人心ニ歸シ。終ニ立テ能ク歩ムヲ得タリ。商人大ニ喜テ曰ハク。予モ亦既ニ凍エテ。將ニ死セントセリ。然ルニ。兄ノ倒ルヲ見テ。之ヲ救ハントシ。大ニ筋骨ヲ勞セシヨリ。我モ亦大ニ暖ナ

リト。二人相喜び。遂ニ恙ナク麓ニ至リシト云フ。
善ヲ行ヘバ善報アリト。是又此謂ナリ。

第二十一課

罐中ノ水汽機ノ大用ヲ開ク

今ヲ距ル一二百年。英國ニ人アリ。ウーストル侯
ト曰フ。冬日獄中ニ在リ。爐邊ニ坐シテ暖ヲ取リ
ケルニ。爐上罐中ノ水。盛ニ煮エ。其氣逼テ口ヨリ
出テ。噫々蓋ヲ動カスアリ。候見テ思ラク。今此鐵
罐蓋ヲ封シ口ヲ塞ガバ。蒸氣洩ル、所ナク。勢必



ズ破烈セン。果シテ然ラ
バ。蒸氣ノ力。蓋シ細少ナ
ラズト。
後。獄ヲ出ルニ及デ。大砲
一門ヲ取り。之ニ水四分
ノ三ヲ盛リ。口ト火門ト
ヲ塞ギ。活火ヲ以テ之ヲ
煮ル。一晝夜以テ其力
ヲ試ミシニ。果シテ破烈

シ。其聲霹靂ノ如シ。後又。機ヲ設ケ此力ヲ藉テ。水ヲ上ゲレニ。高サ幾ド四十尺ニ至リシト云フ。後。大約一百年。英國蘇格蘭ニ少年アリ。瓦徳ト曰フ。常ニ爐邊ニ坐シ。食匙ヲ以テ。罐子ノ口ヲ蓋ヒ。以テ汽力ヲ試ミケルニ。家人其情ヲ責メ。隣人其迂ヲ笑フ。長ズルニ及デ。才學絶倫。益々汽力ヲ研究シ。終ニ汽機ノ製ヲ改メ。舊來ノ弊ヲ除ク。今ニ至テ。世人汽力ヲ利用スルモノハ。實ニ瓦徳ノ賜ナリ。

嗚呼。古來鐵罐ヲ見タルモノ。知ラズ幾千萬人ゾ。然ルニ能ク其汽ノ力ヲ考ヘ。之ヲ有用ニ施スモノ無カリシハ。抑々如何ゾヤ。蓋シ心ヲ用フルノ精シキト。否ザルトニ由ルナリ。故ニ事々物々。意ヲ着ケ。能ク其理ヲ究ムルキハ。其發明スル所。或ハ瓦徳ニ讓ラザルモノアラシ。日附第二十二課 漫ニ人ヲ疑フ勿レ 支那上海ニ旅館アリ。一夕旅客數十人。席ヲ同ウ

訂、此言、
卷二
金港堂
シテ會食セリ。酒酣ナルニ及デ。一商懷中ヨリ印
度ノ通貨ヲ出ダシ。衆ニ示シテ曰ハク。是我ガ近
日印度ヨリ携ヘ歸ル者ナリ。奇ナル哉。形八角ニ
シテ。兩面ニ異體ノ字アリト。衆取テ代ル之ヲ
觀。皆奇ナリト嘆稱シ。輪流シテ終ニ末席ノ士人
ニ到ル。時ニ士人隣人ト相談話ス。金到ニ及デ
一見シテ曰ハク。我既ニ知レリト。直チニ案上ニ
置キ。再ビ隣人ト相語ル。初ノ如シ。衆人モ亦相
笑語シ。談遂ニ他事ニ及ベリ。

既ニシテ。食終リ。侍丁。器皿ヲ收ムルニ及デ。商人
衆ニ謂テ曰ハク。我が金何ヨニカアル。諸君幸ニ
之ヲ返セ。衆皆曰ハク。某ハ某ニ致シ。某ハ某ニ致
セリト。終ニ在ル所ナシ。是ニ於テ。衆大ニ驚キ。皆
以爲ラク。衆中必ズ盜アリト。

第二十三課

其ニ
時ニ一翁。俄ニ坐ヲ起チ。衆ニ謂テ曰ハク。今夕此
席ニ在ル者ハ。一人モ印度ノ金ヲ觀ザル者ナシ。

訂、學、讀、本、卷二

金、港、堂

然ルニ其金ノナキ此ノ如シ。因テ巡吏ニ請ヒ各
ノ懷中ヲ檢シ。終ニ士人ニ及ブ。士人之ヲ肯ゼズ
皆以爲ラク。此人盜メリト衆口齊シク曰ハク。他
人皆檢セシムルニ。君獨リ拒ムハ如何ゾヤ。君愈
ク拒メバ。人愈ク疑ヒ。終ニ以テ賊ナリトスベシ
ト。滿堂喧聒。鼎ノ沸ケルガ如シ。

時ニ室外ニ戸ヲ敲ク者アリ。巡吏開テ之ヲ見ル
ニ。館中ノ奴ナリ。曰ハク。只今器皿ヲ洗ハントセ
レニ。食中ノ中ヨリ異金ヲ得タリ。因テ之ヲ足下
ニ致ス。請フ速ニ本主ニ還セト。一坐之ヲ聞キ相
見テ言ナシ。

此時。士人起テ衆ニ謂テ曰ハク。今ヨリ諸君復々
我ヲ疑フマシ。抑々我ノ拒メルハ。他ニ非ラズ。我
モ亦其金アレバナリ。若シ懷中ヲ檢セシメテ。其
金アルヲ見バ。失フ所ハ出テズシテ。得ル所ハ竊
盜ノ名ノミ。是ヲ以テ。敢テ爾ルナリト。懷中ヨリ
又印度ノ金ヲ出ダシ。カバ。衆皆大ニ恥ヂシト
云フ。第ナ十四點。人ノ不ノ間。ハク此家。

增、是、賣、本、卷二

第二十四課

高名ハ勉強ヨリ成ル

昔シ米國ニ二人ノ小年アリ。俱ニ一木工ノ弟子トナルニ。甲ハ志ヲ立テ、必ズ名工トナランコト期シ。日ニ其業ヲ修メテ怠ラズ。暇アレバ書ヲ讀ミ。算ヲ學ビ。一寸ノ暇モ空シク費スコトナシ。乙ハ性質愚ナルガ上。少シモ其業ニ心ヲ用ヒズ。動モスレバ外ニ出テ。犬ヲ逐ヒ。紙鳶ヲ放チ。嬉戲到ラザル所ナシ。且ツ屢々甲ヲ呼テ曰ハク。來レ何ゾ遊バザル書ヲ讀デ何ニカスル。甲曰ハク。此暇千金ニ換ヘ難シ。豈空シク費ヤスベケンヤト。勉強メテ止マズ。乙木工ハ其業ヲ修メテ。後數年。兩人猶ホ徒弟タリ。時ニ新紙アリ。曰ハク。某所新ニ一ノ會堂ヲ設ケントス。因テ其圖ヲ作リ。之ヲ某所ニ寄セバ。甲第クモ入ニハ。金二千圓ヲ賜フベシト。甲之ヲ見テ。日夜勉強シ。終ニ數圖ヲ作テ寄ス。其圖ハ其入間ニハ。十五六日ヲ經テ。人アリ來テ問テ曰ハク。此家ニ

威簾ト曰ヘル棟梁アリヤ。乙答テ曰ハク棟梁ニ
ハアラザレド。徒弟ニハ之アリ。其人聞テ眉ヲ顰
メ。良アリテ之ヲ呼ベト言フ。是ニ於テ。甲出ツ。其
人詳ニ之ヲ問ヒ。且ツ謂テ曰ハク。汝ノ圖選ニ當
レリ。因テ造營ノ棟梁ヲ汝ニ命ズ。宜シク勉勵ス
ベシ。賞與ノ金ハ不日必ズ賜フベシト。甲拜シテ
之ヲ承ク。世ニ木工威簾ト稱スルハ是ナリ。名ア
ルモノハ。皆勉勵スルコト此クノ如シ。遊惰ニシテ
日ヲ消スルモノ。曾テ名ヲ成セルヲ聞カズ。此

第二十五課

野蠻ノ民文字ヲ見テ魔術トス。開明諸國ノ民ハ。兒童ト雖モ。文字ヲ見テ。毫モ怪
ム者アラザレド。之ヲ野蠻ノ民ニ示ス。片ハ。往々
以テ魔術トスル者アリ。嘗テ工人アリ。南海諸島ニ到リ。一堂ヲ建立セシ
トセシニ。家ヨリ出ツル片規矩ヲ遺レタリ。因テ
焚餘ノ炭ヲ取り。木片ニ書ヲ寫シ。傍ノ土人ヲシ
テ。之ヲ家ニ致サシム。土人之ヲ見テ曰ハク。此ハ

是レ木片ノミ。之ヲ携ヘ到リ。且ツ何トカ言ハン。曰ハク。一言ヲ要セス。唯此木片。我ガ用ヲ辨ゼンノミト。

土人怪デ携ヘ到ルニ。其妻一讀ノ後。即チ規矩ヲ授ク。土人益々怪デ曰ハク。丈人ノ要スル所。果シテ此器ナリヤ。否ヤ。何ヲ以テカ能ク之ヲ知ル。妻曰ハク。木片アレバナリ。曰ハク。木片口ナシ。如何ゾ語ルヲ得ン。且ツ我嘗テ言語ノ聲ヲ聞カズ。妻曰ハク。汝聞カザルモ。我之ヲ聞ケリ。唯々汝之ヲ

取り去レト。其モイ共ニ認ム。幸キシマ市ニ是ニ於テ。土人大ニ驚キ。直チニ家ヲ出テ。左手ニ木片ヲ捧ゲ。右手ニ規矩ヲ取り。走テ部落ニ至リ。大ニ呼デ曰ハク。衆聞ケ。外國ノ人。其智能ク木片ヲシテ言語セシムト。既ニシテ。工人ノ許ニ到リ。規矩ヲ致シ。其術ヲ傳ヘンコヲ請フ。工人之ヲ憫ミ。懇ニ其理ヲ曉トセ。凡解セズ。終ニ木片ヲ以テ。數年頸ニ懸ケシト云フ。又嘗テ甲乙二人アリ。一島ニ到ル。島ノ酋長始テ

文字ヲ見其義ヲ解セントスレ。氏能ハズ。一日甲
ヲ招キ書ヲ寫サン。コヲ乞フ。因テ酋長ノ名「ヒン
」ト書セリ。他日酋長之ヲ乙ニ示シ、ニ乙見テ
「ヒン」ト讀メリ。酋長驚キ曰ハク。此字毫モ我ニ
似タル所ナシ。然ルニ何ヲ以テ此字ノ我タルヲ
知ルト。無智モ亦甚ダシト謂フベシ。

第二十六課

迂翁アリ。曾テ其子ト共ニ驢馬ヲ牽キ之ヲ市ニ
賣ラントス。

時ニ女子六七人相伴ヒテ市ヨリ歸リ。迂翁ヲ看
テ相哂テ曰ハク。何ゾ彼翁ノ迂ナル。騎ルベキニ
騎ラズシテ。却テ歩セリト。迂翁聞テ然リトシ。直
チニ其子ヲ騎セテ。欣然トシテ行ケリ。
行クコト未ダ數歩ナラザルニ。老夫五六人相語り
テ來タルモノアリ。之ヲ聞クニ一老曰ハク。我が
言ノ妄ナラザルハ。之ヲ以テ証トス可シ。今時白
頭ノ者。何ヲ以テカ。敬養セラル、ヲ得ンヤ。君輩

且ク之ヲ看ヨ。老者ハ歩シテ。壯者ハ騎レリト。既ニシテ相近ヅキ。驢上ノ少年ニ謂テ曰ハク。汝ハ年壯。當ニ歩行スベシ。老人ハ足健ナラズ。理當ニ之ニ騎ルベシト。迂翁又以テ理ナリトシ。其子ヲ下ロシテ自ラ騎レリ。時ニ賤婦兩三人。喋々語り來タリ。之ヲ看テ又曰ハク。老人何ゾ情ナキ。自ラ安佚ヲ取ラズシテ。何ゾ令息ト共ニ騎ラザルト。原來迂翁ハ愚直ノ性ナレバ。又以テ然リトシ。直チニ之ニ從フ。

既而市ニ近ヅカントセシニ。一個ノ商人アリ。曰ハク。其驢ハ老人ノ畜フ所カ。二人共ニ騎ルハ甚ダ意無キニ似タリ。驢馬ハ小獸。必ズ任フ可カラズ。如カズ。之ヲ擔ハシニハ。迂翁亦之ヲ是トシ。父子同シク下リテ。驢



訂小學言本 卷二
ノ四足ヲ縛シ。竹ヲ貫キテ之ヲ擔ヒ。市外ノ橋ニ
至レバ。衆人相集マリテ其迂ヲ哂フ。驢馬驚テ脚
ヲ張レバ。索朽テ河中ニ没セシト云フ。
凡ソ人定見ナク。衆意ニ適センヲ求ムルハ。
終ニ此一段話ト一轍ニ歸セシノミ。亦注意セザ
ルベケンヤ。八共ニ湖ハ

第二十七課

童子湖邊ニ泳水ヲ學ブ

一童初テ叔父ノ家ニ到リケルニ。其家湖水ニ臨

シ。時シモ六月ノ頃ニテ。塘ノ草青穠ヲ敷キ。柳ハ
綠ノ髮ヲ梳リ。湖面ハ一大玻璃鏡ヲ開キ。水禽時
ニ波瀾ヲ弄ビ。夕ニ至リ。月東山ノ上ヨリ出ヅレ
バ。萬頃ノ波恰モ黄金ヲ碎ケルガ如シ。
童子此ニ在テ。日々書ヲ讀シ。字ヲ寫シ。倦メル時
ハ。湖邊ニ逍遙シ。又或時ハ小舟ヲ浮ベテ。自ラ櫓
ヲ槽ギ。日々以テ樂トセリ。從來湖邊ノ兒童能ク
水ヲ弄ベドモ。往々誤テ溺死スルモノアリ。是ヲ
以テ。其叔父早ク之ニ泳水ヲ教ヘントス。

一日其叔父侄ヲ携ヘテ湖水ニ入り。之ニ教ヘテ
曰ハク。水ヲ習ハンニハ。先ヅ胆ヲ定ムベシ。胆定
マラズレテ。溺レントヲ恐ル、片ハ。却テ溺レ易
シ。故ニ先ヅ心ヲ定メ。安ンジテ頭ヲ水中ニ入レ
ヨト。童子其言ノ如クスルニ。體自ラ浮ビテ沈ム
トナシ。

此時叔父又曰ハク。此水深カラズ。汝沈マンモ我
此ニ在リ。試ニ手ヲ以テ水ヲ搔キ。足ヲ以テ水ヲ
蹴ル。蛙ノ如クセヨ。必ズ溺レントヲ恐ル、勿
レ。童子終ニ之ニ從フニ。果シテ沈マズ。後再三試
ムルモ猶ホ然リ。

第二十八課

其二

叔父又曰ハク。元來水戯ハ無上ノ運動ナレド。久
シキニ過グレバ害アリ。殊ニ初ノ時ハ。必ズ久シ
クスベカラズ。其體漸ク水ニ慣ル、片ハ。稍久シ
キモ害ナシ。又身體熱スル片ハ。水ニ入ルト勿レ。
若シ然カスル片ハ。速ニ出テ、務テ身體ヲ動カ

シ。皮膚ヲシテ閉塞セシムルコト勿レ。皮膚閉塞ス
ルキハ。必ズ害アル故ナリ。又高キヨリ跳テ水ニ
入ルニ。横サマニ入ルコト勿レ。必ズ先ヅ頭ヲ倒マ
ニシテ入ルベシ。若シ然ラザルキハ胸腹ヲ打ち。
大ニ呼吸ヲ絶ツコトアリ。又鼻孔大ナル者。水ニ入
ルキハ。其水屢々頭上ニ入ルコトアリ。之ヲ防ガン
ニハ。綿少許ヲ以テ鼻孔ヲ塞グベシト。

童子大ニ喜ビ。且ツ其叔父ノ醫師ナルヲ以テ心
ニ其説ノ虚ナラザルヲ信ジ日々其言ノ如クシ
ケルニ。數日ニシテ上達シ。終ニ水上書ヲ寫シ。水
底沙ヲ捨フニ至ル。

第二十九課

今日怠リテ明日アリト云フコト勿レ

曾テ一人ノ童子アリ。事ヲ命ズルモ。即時ニ辨ゼ
シコトナシ。一日母庭門ヲ鎖セト言ヒケルニ。童子
ハ今ト答テ。小説ヲ讀メリ。此間家猪數十頭。早ク
庭内ニ走セ入りテ。縦横草木ヲ反壞シ。園花爲メ
ニ狼藉タリ。

母又課本ヲ取り直チニ温習セヨト言ヒケルニ。又今ト答ヘテ。紙鳶ヲ作り。竟ニ之ヲ讀マズ。明日學校ニ至ルニ。試験劣ヲ取り。又昇級ノ期ヲ失ヘリ。

此童子人トナルニ及テモ。猶ホ此弊アリ。曾テ銀行ヨリ取ルベキ金アリ。其銀行甚ダ衰ヘ。既ニ倒レントセシニ。猶ホ明朝ヲ期セリ。明朝到レバ。銀行既ニ倒レ。復タ取ルベキ處ナシ。又曾テ居宅ヲ以テ。保險會社ニ托セントス。心ハ

早ク決シタレ。猶ホ怠リテ明日ヲ期セリ。然ルニ其夜祝融ノ災ニ罹リ。屋宇盡ク。烏有ニ歸セリ。古語ニ曰ハク。今日怠リテ明日アリト云フ。勿レト。宜ナル哉。

第三十課

務テ身體ヲ動カセバ終身病ナシ

人ハ毎日必ズ身體ヲ動カスベシ。然レモ多キニ過グベカラズ。過グレバ却テ害アリ。人ノ身體ニ筋肉アルハ。元ト運用ノ爲ニ設ケタルナリ。然ル

ニ近時ノ人漫リニ馬車ヲ驅リ人車ヲ馳セテ務
テ安佚ナランヲ謀ル。是造物主ノ本意ニ背ク
モノナリ。櫓ヲ漕ギ馬ニ乘リ園圃ヲ芸リ草木ニ
水澆ギ山ニ入りテ菌蕈ヲ取り野ニ出デ芳草
ヲ摘ミ或ハ銃ヲ放テ野鳥ヲ獵リ或ハ網ヲ投ジ
テ水魚ヲ捕フル等。是皆筋肉ヲ動カシ病ヲ避ク
ルノ術ナリ。凡ソ讀書ノ人及ビ坐業ヲ作ス者ハ
每日一兩時間務テ是等ノ事ヲ爲セ。必ズ神心活
潑常ニ快樂ヲ覺ユベシ。

又室内ニ在テ適宜ニ身體ヲ動カスモ可ナレ。凡
戶外開濶ノ地ニ出テ、歩行スルノ妙ナルニ若
カズ。然レモ漫ニ行程ヲ貪リ速ナランヲ欲スル
ヲ勿レ。唯ク緩歩シテ足疲ル、ヲ覺エバ可ナリ。
凡ソ歩行ノ後食進マザルハ度ニ過ギタルノ徵
ニシテ食進メバ其度宜シキヲ得タルノ證ナリ。

第三十一課

金囊ヲ托セバ必ズ證券ヲ要ス

曾テ二人アリ。相隣リテ居ル。一ヲ芳野ト曰ヒ。一

ヲ惡川ト曰フ。芳野ハ天性篤實ニシテ。人ヲ信ズルヲ頗ル厚ク。惡川ハ過欲ニシテ。最モ財貨ヲ好ミ。動モスレバ正道ヲモ顧ミザルヲアリ。一日芳野。惡川ヲ訪テ曰ハク。明日我叔父ノ病ヲ問ハントス。然ルニ我ニ千金アリ。家ニ置カンモ安カラズ。如何セバ可ナランカ。

惡川眼ヲ轉ジテ曰ハク。我ニ一箇ノ鐵箱アリ。我之ニ金ヲ貯ヘ銀ヲ蓄フ。火モ燒クヲ能ハズ。盜モ奪フヲ能ハズ。兄ノ金モ之ニ收メバ。コレヨリ安



キハナシ。那中五ニ不五芳野聞テ大ニ喜ビ。金囊ノ口ヲ開キ。惡川夫婦ノ前ニテ。其金ヲ數ヘ。再ビ之ヲ囊中ニ入レ。固ク口ヲ封シ。且ツ一紙ヲ上ニ貼シテ。其金ノ數ト姓名トヲ録シ。惡川ニ托シテ去ル。芳野去テ後。惡川ノ

妻哂テ曰ハク。何ゾ芳野ノ迂ナル。金ヲ托レテ證券ヲ取ラズト。惡川曰ハク。我が夫妻ヲ信ズルノ厚キガ故ナリ。吾之ヲ忘ルベカラズ。卿モ亦忘ル、勿レト。此時惡川未ダ惡意ヲ生ゼズ。後幾ド一年。芳野歸リ。翌日隣家ニ至リテ。金囊ヲ返サンコトヲ請フ。

第三十二課

其二

此時惡川夫妻。相見テ暫ク言ナク。眼中互ニ不正

ヲ謀ルニ似タリ。良アリテ曰ハク。兄何ヲカ言フ。嚮ニ兄ノ金ヲ托セントスルキ。穿窬ノ徒アラシコトヲ恐レテ諾セズ。當時我が妻モ側ニ在リ。能ク我が言ノ妄ナラザルヲ知レリト。

芳野曰ハク。好シ我卿等ヲ信ジテ。當時証券ヲ取ラズ。因テ此ニ至ル。我ハ金ヲ失フベシ。然リト雖モ。卿等宜シク深ク考フベシ。非理ノ金ハ必ズ惡報アリ。今夕卧床ニ就キ。卿等ト我ト孰レカ安眠ヲ得ベキ。我卿等ノ爲メニ嘆ゼザルヲ得ズト。帽

ヲ取り戸ヲ開テ出ヅ。

悪川ノ妻。夫ニ謂テ曰ハク。芳野ノ言。誠ニ理ナリ。且ツ彼ノ金ハ。我が家ノ禍ナリ。速ニ呼ビ還シテ曰ヘ。前言ハ戯レノミト。夫曰ハク。芳野ハ富人ナリ。之ヲ失フモ。大海ノ一滴ノミ。

第三十三課

其三

芳野歸リ。具サニ之ヲ官ニ訴フ。有司悪川ヲ招テ。之ヲ糾問スルニ。曰ハク。無根ノ妄言ノミ。我何ゾ

之ヲ知ラシ。有司曰ハク。汝ノ言果シテ虚ナヲズバ。我が口授ニ隨ヒ書ヲ作テ汝ノ妻ニ致セ。

悪川惧レ。門ヲ望テ逃ゲントスルニ。邏卒嚴ニ守リテ得ベカラズ。是ニ於テ止ムヲ得ズ。筆ヲ執テ有司ノ言ヲ所ニ隨ヒ。

金囊一箇。嘗テ芳野氏ヨリ托セラレシモノ。今之ヲ本主ニ返サントス。速ニ此僕ニ附シテ送レ。草率不一。

ト書キケルニ。有司之ヲ取り。細ニ點檢シテ。使ニ

附ス。

既ニシテ使金囊ヲ携ヘテ來タル。惡川之ヲ見ルヨリ。顔色忽チ土ノ如ク。身戰慄シテ罪ニ服ス。因テ其金ヲ芳野ニ與ヘ。且ツ誠メテ曰ハク。今ヨリ汝金ヲ托サバ。其人ノ善ト不善ヲ問ハズ。必ず証券ヲ取レト。芳野喜ビ拜謝シテ去ル。

第三十四課

惡ヲ行ヘバ惡報アリ

曾テ少年アリ。慈仁ノ心甚ダ乏シ。或夜乗合ノ馬

車ニ乘リシニ。後ヨリ一人ノ老人來タリ乘レリ。少年ハ新傘ヲ持チ。老人ハ舊傘ヲ持テリ。車發シテ行クノ數十歩。忽チ傘ノ落チタル音アリ。老人驚テ御者ヲ呼ビ。車ヲ停メントスレドモ。聲低ウシテ通ゼズ。因テ少年ニ向ヒ。我が爲メニ車ヲ停メヨト乞ヒシニ。少年晒テ曰ハク。老成人ニシテ。携フル所ヲ失フ何ゾ愚カナルヤ。此車君一人ノ爲メニ停メ難シト。老人大ニ憂フレバ及バズ。既ニシテ。其車停マリ。衆人車ヲ下ラントスル片。

車中ヲ檢スルニ。老人ノ傘有テ。少年ノ傘無シ。是ニ於テ。始テ先ニ失ヒシハ。少年ノ傘ナルノ知レリ。少年大ニ憂ヘタレ。今ハ尋ヌルニ由ナク。茫然家ニ歸リシト云フ。

第三十五課

板倉勝重内謁ヲ塞グ

板倉勝重ハ。徳川家ノ良臣ナリ。天正年間。家康公城ヲ駿府ニ築キ。勝重ヲ以テ奉行トス。勝重再三辭スレ。許サズ。則請フテ曰ハク。然ラバ家ニ歸

テ妻ト謀ルベシト。公哂テ之ヲ許ス。

因テ家ニ歸リ。徐ニ其室ニ謂テ曰ハク。今日我奉行職ヲ命ゼラレタレ。汝ト謀ラント欲シテ。辭シテ歸レリ。汝以テ如何トス。室驚テ曰ハク。是公事ナリ。女流ノ知ル所ニ非スト。勝重曰ハク。然ラズ。古ヨリ官吏内謁ニヨリテ事ヲ敗ル者甚ダ多シ。汝今ヨリ我が事ニ一言ヲ容レズ。又賄賂ヲ受ケザル誓ヲ立テバ。則チ命ヲ拜スベシ。如何。室堅ク誓フ。

勝重服ヲ改メ再ビ出デントスルキ。故ラニ袴ノ
腰板ヲ戻ラス。室送テ玄關ニ至リ。之ヲ見テ正サ
ントス。勝重怒テ曰ハク。汝何ゾ誓ヲ破ルノ速ナ
ル。我復タ命ヲ拜セジト室大ニ恐懼シテ。深ク之
ヲ謝ス。是ニ於テ。遂ニ命ヲ拜シテ。職ニ就キシニ。
百事平正ニシテ。庶績大ニ舉リ。慶安中ニ京都所
司代トナリ。民情ニ協ヒ。衆庶悅服ス。

第三十六課

骨ハ土質ト膠質ヨリ成ル

骨ハ土質ト膠質トヨリ成ル者ニテ。體中ニ在ル
片ハ其色青白ニシテ。僅ニ紅色ヲ帶ブ。是血液ノ
其内ニ浸入セルニ因ル。若シ體內ヨリ取り出ダ
シ。之ヲ風日ニ晒スキハ。漸ク變ジテ白色ト成ル
モノナリ。幼年ノ時ハ膠ノ質多キガ故ニ。其骨撓
ミ易クシテ折レ難ケレ。老年ユルニ從ヒ。土質
次第ニ増シ。漸ニ脆キニ至リ。動モスレバ折レ易
シ。

試ニ土質ト膠質トヲ分カタントセバ。先ヅニ骨

ヲ取り。一ハ火中ニ投ジ。一ハ稀鹽酸ノ中ニ浸ス
ベシ。火ニ遭フ者ハ。膠ノ質全ク燒ケ去リテ。土質
ノミ殘リ。白クシテ甚ダ脆ク。酸ニ入ル者ハ。土質
全ク鎔ケ出デ。膠ノ質ノミ殘リ。柔ニシテ甚ダ
撓ミ易シ。若シ以テ之ヲ結ベバ。屈撓殆ド索ノ如
シ。亦奇ナラズヤ。

第三十七課

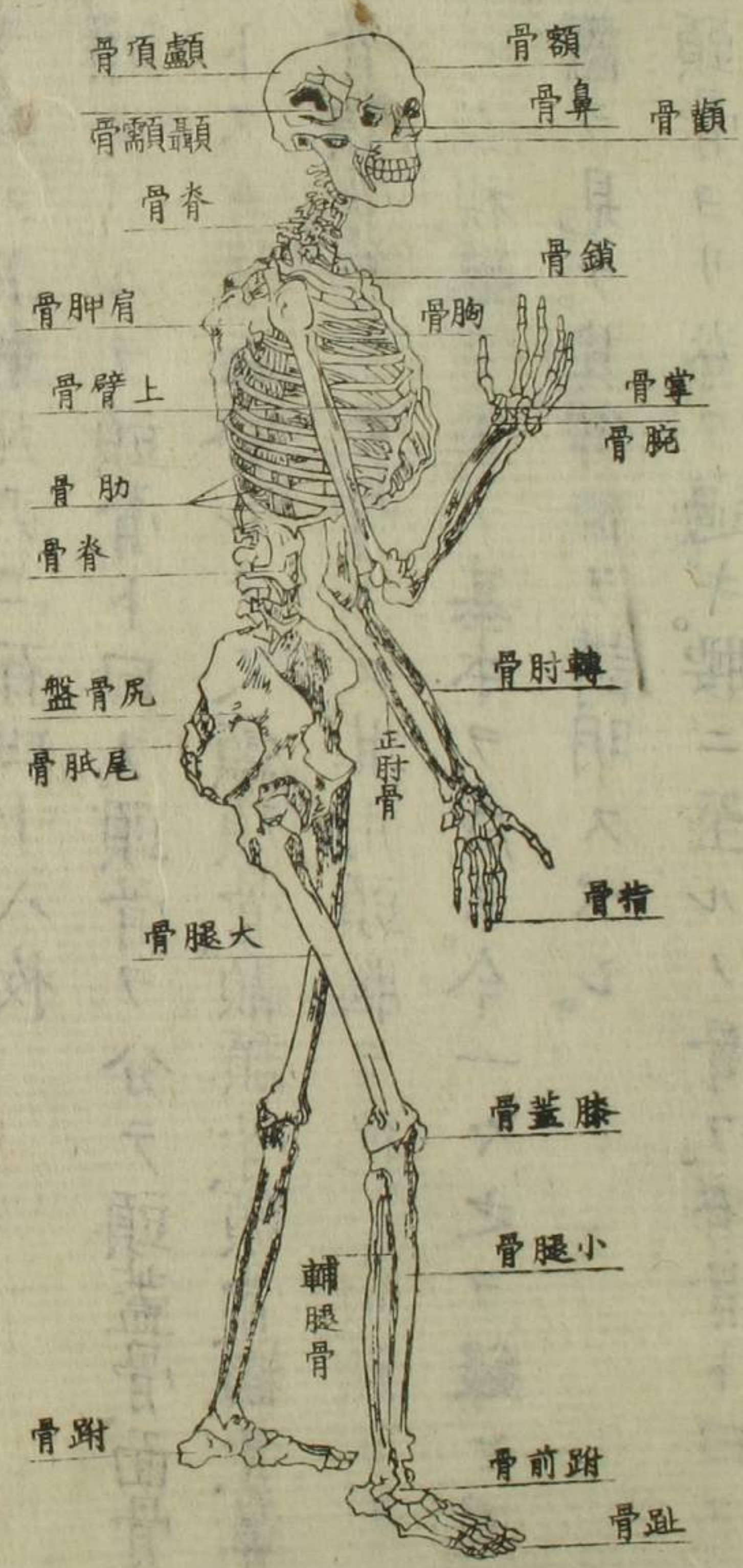
人骨二百四十八枚

家屋ヲ作ルハ。基礎柱梁ヲ本トス。柱梁堅カラザ

レバ。其家堅牢ナラス。人ノ身體モ亦甚ダ之ニ似
タルアリ。堅骨柱トナリ。筋肉臟腑之ニ依テ其用
ヲ成ス。其數凡テ二百四十八枚。

頭ニアルヲ頭骨ト曰フ。頭骨ヲ分テ頭蓋骨、面骨
トス之ヲ細分シテ又顱頂骨、顱額骨、額骨、顴骨、鼻
骨、顎骨等ノ數骨トス。其用頭腦ヲ包ミ。面貌ヲ形
ハシ。視聽言嗅ノ基本ヲ成ス。今一々之ヲ録セズ。
圖ヲ見テ。其部位ヲ講明スベシ。

頭骨ヨリ脊ヲ過ギ。腰ニ至ルノ骨ヲ。脊骨ト曰フ。



諸骨ノ中。最モ巧妙ナル者ニテ。二十四枚ノ小骨
相重リテ成ルモノニテ。其狀殆ド竹根ノ如シ。人

ノ身體能ク屈伸スルハ。必竟此骨ノ巧用ナリ。

第三十八課

其二

脊骨ノ左右ヨリ出デ。彎曲シテ前面ニ至リ。胸骨
ト相連ナルヲ。肋骨ト曰フ。此骨相圍テ籠ノ如ク。
以テ心臟ト肺臟トヲ保護ス。肋骨ノ上ニ頸ヨリ
出デハ。左右ノ肩ニ至ルヲ。鎖骨ト曰フ。鎖骨ノ後
左右肩ノ處ニ。各一枚ノ骨アリ。之ヲ肩胛骨ト曰
フ。肩胛骨ト鎖骨ト。相接スル處ヨリ。又長キ骨ア

リテ出ヅ。是即チ手ノ骨ナリ。肱ヨリ上ヲ上臂骨ト曰ヒ。肱ヨリ下。手頸ニ至ルノ骨ヲ。正肘骨、轉肘骨トス。手頸ノ處ヲ腕骨トシ。此ヨリ次第シテ。掌骨、指骨トス。

脊骨ハ。腰ノ處ニ至リテ止マリ。此レヨリ薦骨、尾胝骨トナル。此骨尻骨盤ノ間ニ在リテ。共ニ腹ノ下底ヲ成ス。尻骨盤ノ左右ヨリ出デ長ク下ニ至ルハ。即チ足ノ骨ナリ。肱ヨリ膝ニ至ルヲ。大腿骨ト曰ヒ。膝ノ頭ノ圓キ骨ヲ。膝蓋骨ト曰フ。膝ヨリ

下。踵ニ至ルヲ。小腿骨、輔腿骨ト曰フ。此レヨリ趾ニ至ルマデ。次第シテ。跗骨、跗前骨、趾骨トス。

增 小學讀本卷ノ二終

松本楓湖畫



明治十五年五月二十日版權免許
同 二十年七月廿九日校正御届

定價金拾錢

編者

千葉縣平民

内田嘉一

神田區淡路町二丁目九番地

版人

東京府士族

原亮三郎

日本橋區本町三丁目早七番地

大賣捌所

大塚齋橋筋北金寺町四丁目十一番地
金港堂原亮三郎支店

賣捌所

岐阜
仙臺
金港堂支店

各府縣下代理大賣捌所



